

病床管理運用システムの構築と診療情報管理課の 関わり

城下 良介¹⁾ 今井 章智²⁾ 中上 富久美¹⁾

1) 高山赤十字病院 診療情報管理課診療分析係

2) 高山赤十字病院 企画調整課情報システム係

【はじめに】当院は岐阜県の山間部に位置し「ふるさとを守る医療」という理念のもと、救命救急センター／7対1急性期病棟／回復期リハビリ病棟／地域包括ケア病棟／老人保健施設を有し、急性期から慢性期に対応する地域医療を目指している。それぞれの病棟への転棟においては、病棟の特色や機能に応じたベッドコントロールが重要であり、その指標となるデータが必要となった。病床運用の基盤となる院内指標として、関連するデータを閲覧するシステムを構築し運用したので報告する。

【方法】入院情報、重症度、医療・看護必要度、DPC情報、リハビリ実施単位数を各システムより集約し病棟別の一覧表とした。重症度、医療・看護医療必要度を色別に表示し、DPC入院期間と日当点を付け加えることで、病床運用の会議にむけて転棟患者を検討する情報の提供を行った。

【結果・考察】この一覧表は、入院サポートセンター、病棟、医事課で情報共有され、急性期から回復期へ適切な期間での転棟を検討するための共通指標となった。平成28年度診療報酬改正における変更点については早期に対応し、運用が滞ることなくデータの提供を行った。また、重症度、医療・看護必要度の「A項目 救急搬送」及び「C項目」に関しては、看護師による評価の後、医事課でのダブルチェックを開始するなど、精度向上の取組も行った。

【結語】このシステムの構築から2年が経過し、診療報酬改正や病棟、部門からの要望を細かに取り入れながら、当院に順応したシステムを構築することができた。データの活用と情報発信をすることで、診療情報管理課として院内連携に大きく関わることもできた。